

家庭科

自分の学びを生かしながら、

豊かな家庭生活を創造する子供の育成

～家庭生活とのかかわりを深め、自分らしい生活をめざす授業の展開～

1 研究の経緯と本年度の研究の方向

(1) 研究の経緯

本校家庭科部会では、本校の研究主題「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」を受け、自分の家庭生活を創り出そうとする態度、家庭科の時間に学んだことを家庭生活の中で実践していく力、家族を思いやるやさしさや家庭生活をよりよくしようとする心を育てていきたいと考え、研究主題を「自分の学びを生かしながら、豊かな家庭生活を創造する子供の育成」として掲げ、研究を進めてきた。

1年次である昨年度は、「家庭生活への関心を高めること」を特に重視し、そのためには、自分と家庭生活とのかかわりを意識した題材の展開や、家庭科の時間に学んだことを家庭生活に生かしていこうとする実践への意欲を高めていくことが大切であると考えた。そこで、副主題を、「家庭生活とのつながりを意識しながら、学びを深めていくことができる授業の構想」とし、具体的な内容として次の2点に焦点をあて研究を進めた。

(1) 家庭の願いを取り入れた題材の展開

- 家庭科の基礎的・基本的な知識や技能、思考・判断、家庭で実践していく力を大切にしながらも、意図的に家庭の願いとのかかわりを持たせた題材の展開をしていくこと。

(2) 家庭生活での実践への意欲を高める支援の工夫

- 家庭科の時間に学んだことを、自分の知恵として創造していくために、実生活に役立つマニュアルカードの改善や、友達との学び合いの場の工夫をすること。

その成果として、

- 自分の家庭からの願いを知ることで、家庭生活を身近なものとして感じて課題を決めたり、追究活動をしたりし、題材を通して自分の家庭とのつながりを意識した活動ができた。このことは、学んだことが自分の家庭生活にも生かせるという実感を味わうことになり、実践への意欲を高めることにつながった。
- 友達との学び合いの時間を設定したことで、一人一人の持っている知識がより自分らしい家庭生活を送るためにはどうしたらよいのかを考える場となり、新たな自分の知恵として創意工夫していこうとする姿が見られるようになった。

(2) 本年度の研究の方向

2年次にあたる本年度は、さらに、実践への意欲を高め、学んだことを自分の家庭生活に合ったものへと工夫していくことが、本校の研究と深い関連を持つものと考え、研究を進めてきた。

家庭科は、一人一人の子供のよりよい生活をめざす実践的な態度を育てることをねらいとしている。実践的な態度を育てるためには、進んで自分の家庭生活の課題にかかわり、課題を解決するために考えたり、試行したり、工夫したりできる授業を展開していく必要がある。そのために、ふだん、何気なく過ごしている家庭生活をじっくり見つめ、そこにあるよさや課題に気づき「なぜだろう」「どうすればいいのだろう」「やってみたい」「調べてみよう」「自分ならこうしよう」など、自分とのかかわりで家庭生活を考えさせたい。見つめる対象が自分の家庭生活であれば、それを意識し、こだわりを持って課題解決に向かうことができると考えた。

また、自力で課題を解決していくためには、家庭生活への関心・意欲・態度はもちろんであるが、子供自身がこれまでの生活経験や学習経験で身に付けた知識や技能をもとにして、考えたり試行錯誤したり判断したりできるように、家庭での実践に生かすための追究活動の場を工夫していく必要がある。そこで、本年度の副主題を「家庭生活とのかかわりを深め、自分らしい生活をめざす授業の展開」とし、研究を進めていくことにした。そして、2年次の研究の柱を以下の2点にした。

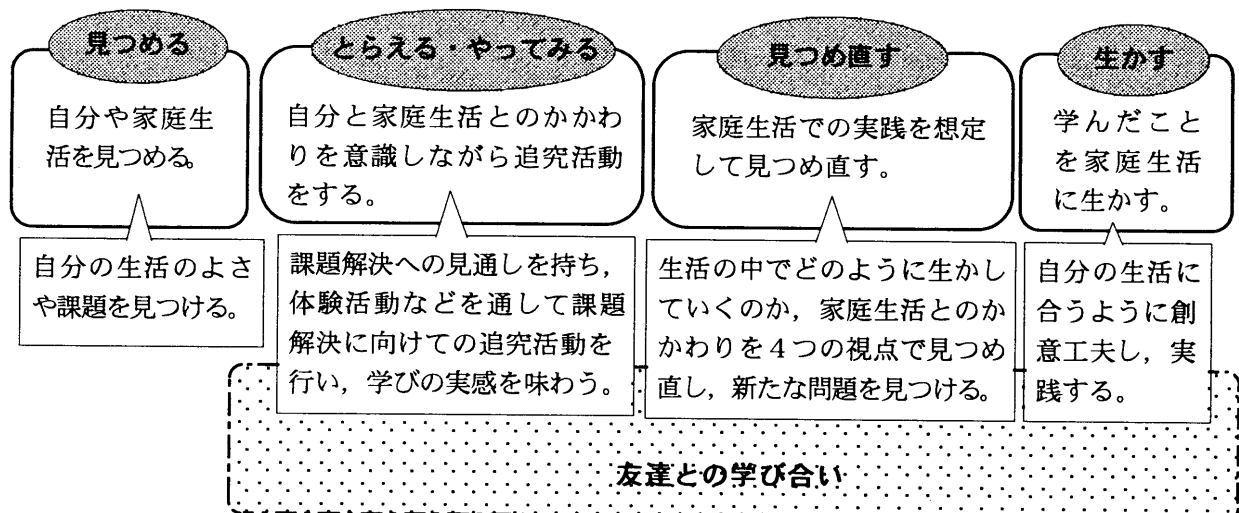
- (1) 「自分なら」という意識を持ち、学びの手ごたえを感じられるようにする学習過程の工夫
 (2) 家庭での実践につなげていくための支援の工夫

2 研究の内容

(1) 「自分なら」という意識を持ち、学びの手ごたえを感じられるようにする学習過程の工夫

子供が自分の家庭生活に関心を持って見つめることから課題を見出し、その学習課題の解決をめざして、情報を収集し、知識や技能を身に付け、思考を働かせて自分から学びとっていくような題材の展開を重視すれば、自分の見つけた課題にこだわりを持って追究活動に取り組み、題材を通しての学びが連続していくことになると考えた。(図1)

(図1) 家庭生活とのかかわりを深め、自分らしい生活をしていくための学習過程



ア 家庭生活を自分のものとして実感できる「見つめる活動」と「見つめ直す活動」の工夫

常に自分の家庭生活とのかかわりを意識しながら学習が進められるように、「見つめる活動」と「見つめ直す活動」を意図的に設定する。

まず、導入時には、題材とのかかわりで「自分のこと」を見つめる活動を設定するようにする。(図2)これは、自分を客観的に見て自分をよく知ることが、自分の生活の問題を見付け、課題設定でのこだわりや課題解決の必要感を高めるのに有効と考えたからである。

さらに、本年度は、学校での学びの実感が強い体験活動などの追究活動の後に、もう一度見つめる場(以下「見つめ直す」と表記)を設定し、「自分なら」「自分の家庭では」という意識を持って、学びが連続していることを実感しながら、意欲的に自分の課題解決に取り組めるようにした。(図3)見つめ直す視点として、課題を①自分とのかかわり、②家族とのかかわり、③消費者としてのかわり、④環境とのかかわりという4点を設け、新たな自分の課題が見つけれられるようにする。これらの活動を通して、一人一人の子供がもっとよりよい家庭生活を気付こうと考えたり工夫したりし、学びの手ごたえを感じることができるようしていく。

本年度は、見つめカードを作成し、マニュアルカードの中に累積をしていく活動を取り入れ、自分とのかかわりを意識した学習過程を実感できるようにした。

(図2) 題材の最初の「見つめる活動」

題材の導入時に、題材にかかわる生活経験や今までの学びなどから自分のことを見つめる活動を行う。

「野菜を使った料理を作ろう」
〈見つめてみよう〉

かんたんな調理をするときに、自分ができることを書き出してみましょう。

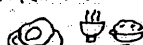


自分ができる料理は・・・	使える道具は・・・	ほかに行えることは・・・
サラダ ゆでたまご かき揚げ オムレツ 目玉焼き おにぎり	まな板 ほうちゅう コンロ でんしレンジ オーブントースト	やく ゆでる にる かたづけ

これは、5年生の初めての調理なので、「自分を知る」ために、作ったことのある料理と用具について見つめたが、調理に慣れてきた段階なら、見つめる活動を「自分・家族・消費者・環境」の4視点で見つめてくるよう働きかけるようにするとよい。

(図3) 題材の終末の「見つめ直す活動」

「自分の家庭ならどうか」「学校での学びをどう家庭に生かせるか」など家庭生活とのかかわりで自分の学びを見つめ直す活動を行う。

「野菜を使った料理を作ろう」見つめ直しカード
年 組 () 名前

見つめ直す ポイント	
自分	私はさっぱりとした「ポテトサラダ」を作りたい。そのためは、 <u>ほうちゅうの使い方</u> を身につけよう。たなにお酢を死見。お酢入りのポテトサラダを作ろう……。
家族	いつもいつもお母さんやお父さんに、料理をつくってもらっているから、たまには私がつくってあげよう? 
買う・使う・使う	なるべく家にある物を使おう?  ゆでた時に使ったあついお湯は庭のさっ草にまけば、かれちやうから、使おう? ←お母さんの考え
環境	油についたお皿はそのまま洗うと、海の水がよごれてしまい、環境によくない。 なのでうちでは、キッチンペーパーやいらぬい布でふきとってから、洗います…… 

平成 13 年 11 月 10 日 (土)

〈見つめ直すポイント〉

- | | |
|-------------|-------------|
| ①自分とのかかわり | ③消費者としてのかわり |
| ・自分の技能 | ・買い方・使い方 など |
| ・自分ができる工夫など | ④環境とのかかわり |
| ②家族とのかかわり | ・不用品の活用 |
| ・○○さんのために | ・ごみの始末の仕方 |
| ・家族への思い など | ・後始末の仕方 |
| | ・地域では など |

イ 学習過程が分かる学習計画表の工夫

昨年度から、自分の課題を自力で解決していくために、追究の方向を見失わず、見通しを持って学習が進められる学習計画表を作成している。これには、子供が題材で身に付けてほしい資質や能力を「学習の目標」として子供の言葉に下ろして具体的に示されているため、常にそこに戻って自分の学びを確認しながら学習を進めることができた。さらに本年度は、「見つめる・とらえる・やってみる・見つめ直す・生かす」という学習過程を記入した学習計画表を提示し、1題材を通した学びの連続が、家庭生活に生きていくことを実感させていくようにした。特に、「とらえる・やってみる」の場では、「こうしたからできた」という満足感や達成感が味わえ、「こうするとよかった。次はこうしよう。」という新たな課題意識が生まれるような学習計画表になるよう工夫した。

(2) 家庭での実践につなげていくための支援の工夫

ア 自分の生活に生きる実践的・体験的活動の工夫

家庭での生活体験が少なくなっている子供達に、実践的・体験的な学習を展開していくことは、家庭での実践につなげる上で最も有効である。本校家庭科部会では、課題をとらえる段階や追究していく段階で、自分の生活からの問題を発見できるような活動や、課題を追究できるような活動を意図的・計画的に設定するが、子供が自分の生活に生かしていくのに有効な体験活動を

自分で選択して学習を進めていく場も設定していくようにする。例えば、追究活動の中で、全員で共通の課題を解決する時間をとったり、自分の課題について追究方法を自分で考えながら体験活動をしたりするのである。これらの活動を通して身に付けた知識や技能、生活に対する見方や考え方などは、自分の生活での工夫や実践に生かされるものと期待している。

イ 自分らしい工夫が生まれる学び合い活動の工夫

友達のよさに気付くためには、まず、自分をよく知り、自分の考えを持つことが必要である。また、一人一人のよさは、他とかかわることによって気付く、高められるものである。子供達が自分のよさに気付く、さらに友達のよさに気付く認め合うことができれば、よりよい生活を創造することができるようになると思った。そこで、話し合いの中に自分がやってきた体験や実践を友達に教えたり伝えたりする活動を取り入れて、家庭での実践がより具体的になるようにしていき、「自分にもできそう」「自分ならこうする」という自分の家庭生活に合う工夫が生まれるような学び合い活動考えた。

学び合いの活動をするにあたっては、自分が今まで追究してきたことを、根拠を明らかにして自信を持って友達に伝えることを大切に、実物や写真やまとめた資料などを提示したり、計画表やマニュアルカードを活用して、分かりやすく伝える工夫をしていくようにする。

また、昨年度から話し合いの手順として示してきた観点（積み上げる、組み合わせる、見方を変える）を継続して行い、家庭生活を創意工夫する態度を育ていく。

学び合いカード

自分の家庭に生かせることをまとめよう 5年 組() 名前

	ポテトサラダ	ブロッコリーのサラダ	にらたまスープ	ほうれん草の白煮え
自分の生活で使ったこと	はややくゆでるため、じゃがいもはうすくきる。	ゆでた後は水にブロッコリーを入れ、そのままの方がおいしい。	にらを切る時、上の方は虫に食われていて、下は固いので切る。	ほうれん草をゆでる時は、かたい方から入れる。そして30秒位であげる。
組み合わせる	ポテトサラダにブロッコリーを入れてもよさそうだった！			
組み合わせる	たまごが固まったら完成！			
別の見方で見る	(ほとんど)油を使う時は布で油を拭きとる。そのまま洗うと油がよこれてしまう。マヨネーズを使う時など。布で拭きとる。捨てるのは工夫して使う。			
創意工夫	じゃがいもをゆでる時は、10分たつと、ポテトマシーンでつぶすから、10分よりもうちょっと長くゆでる。もう一つゆでる時は、ゆですぎると、つぶすときつぶしやすくなるため、ゆですぎは小さく。			

ウ 学びを広げる家庭用マニュアルカードの活用の工夫

昨年度からは、学校で学んだことを自由にまとめていくマニュアルカードに加え、家庭で実践したことや、家族が家庭生活で工夫していることを書き留めた家庭用マニュアルカードを活用している。本年度は、その家庭用マニュアルカードを活用し、一人一人の実践を友達に広げること考えてきた。友達の様々な実践を紹介することで、自分の家庭生活を再度振り返ることができるとともに、自分の家庭でも活用できそうだという実践への意欲を喚起することができると考えた。

家庭での実践の紹介の仕方としては、ホワイトボードを使った「見て！見て！コーナー」を設置し、家庭用マニュアルカードがいつでも見られるようにしていく。活用の仕方としては、例えば、5年生で実践した「ゆで野菜の調理」の記録を次の5年生で同じ題材を扱う時に掲示したり、食に関する題材を扱う時の資料にしたりするなど、意図的な支援ができるようにした。

3 研究の課題と今後の課題

本年度は、「自分なら」「自分の家庭なら」どうするのかと、家庭生活とのかかわりを常に意識しながら家庭科の授業を展開し、学校で学んだことを自分の家庭生活に合ったものに創意工夫しながら実践していく子供を育てる研究を進めてきた。その結果、友達とのかかわりを通して自分の家庭生活を見直したり、工夫したりする姿が見られるようになり、実践への意欲は高まってきている。今後は、追究活動時における評価のしかたを工夫して、基礎・基本を確実に身に付けさせていくことや、学校で学んだことを生活の中で工夫して実践をしていくことが自分らしい生き方を考えることにつながっていくことを実感できるような支援の工夫について研究を進めていきたい。